

〔續日本後紀仁明〕承和五年七月丙寅天皇幸葛野川觀魚賜扈從五位已上祿有差

〔三代實錄清和二十六〕貞觀十六年七月廿九日乙卯太宰府言去三月四日夜雷霆發響通宵震動○中比

及昏暮沙變成雨禾稼得之者皆致枯損河水和沙更爲蘆濁魚鱉死者無數人民有得食死魚者或死或病

〔宇治拾遺物語十四〕いまはむかし遣唐使のもろこしにあるあひだに妻をまうけて子を生せつ、その子いまだいとけなきほどに、日本にかへる、つまにちぎりていはく、こと遣唐使いかんにつけて消息やるべし、またこの子乳母はなれんほどにはむかへとるべしとちぎりて歸朝しぬ、母遣唐使のくる毎に消息やあると尋ねれど、あへてをともなし、母おほきに恨みて、この兒をいたきて日本へむきて、ちごのくびに遣唐使それがしが子といふ簡をかきてゆひつけて、すぐせあらば親子の中は行逢なんといひて、海になげ入てかへりぬ、父あるとき難波のうらのへんを行に、沖のかたに鳥のうかびたるやうにてゑろき物みゆ、ちかくなるまゝにみれば、童に見なしつ、あやしければ馬をひかへて見れば、いとちかぐよりくるに、四ばかりなるちごの、ゑろくおかしげなる浪につきてよりきたり、馬をうちよせてみれば、大なる魚のせなかにのれり、○中魚にたすけられたりければ、名をば魚養とぞつけたりける、七大寺の額どもは、これがかきたるなりけりと、

〔百練抄四條〕長和二年六月、美濃國異魚出來、進其圖、

〔吾妻鏡二十六〕貞應三年○元仁五月十三日近國浦々大魚其名不_二多死浮海上寄于三浦崎、六浦前濱之間、充滿鎌倉中、人舉買其定○定恐家々煎之、取彼油、異香滿閨巷、士女謂之旱魃之兆、無先規非直也事云云、